

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 113	提案機関名	かながわ西湘農業協同組合	
要望問題名 ウメ かいよう病の多発要因の原因究明と防除対策			
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】			
<p>平成18年度試験要望112号にてかいよう病防除の試験依頼をしたところ現地対応ということで「かいよう病は他県でも多発傾向にあり、和歌山県で研究されています。それによると、かいよう病の第一次伝染源の潜伏越冬枝病斑は3月上中旬～4月上旬にかけ形成され、主要感染時期は前年の10月以降です。9月末～11月上旬の銅剤散布に防除効果が認められています。詳しい試験成績についてはお問い合わせください。」と回答により秋季の防除を指導したがかいよう病発生が収まらず、再度、平成24年度に試験要望をした。</p>			
<p>平成24年度試験要望090号では調査指導・現地対応との回答を得て「かいよう病は強風や大雨などの自然災害で発生が左右される病害です。しかし、現在収穫前日数が短くて有効な剤がマイコシールドしかなく、それについても収穫前の使用日数が21日であることから、従来よりもポイントを押えた防除をおこなう必要があります。最近では福井園試で、ウメの果実への防除精度を上げるために、4月の基間防除に対して、果実横径が10～15mmの時にマイコシールドを散布し、1回目の散布から1週間以降に強風雨などの自然災害が起きたら1～3日以内に追加的にマイコシールドを散布するという防除体系が提案されています (http://info.pref.fukui.jp/nougyou/noushi/data/fukyu/h21/11.pdf と http://info.pref.fukui.jp/nougyou/fr/101/fr101_7.pdf)。現在、農業技術センター所内のウメではかいよう病の発生が少なく調査結果が得られない状態です。また、現地の方が様々な条件が重なることもあり実際の散布効果がわかると思います。現地で福井園試の成果についての適応試験をおこなう場合、葉や果実の発病調査などに協力します。」と回答を受けた。</p>			
<p>しかし、JAにおいては、研究機関ではないため、試験区を設定し結果を分析まで出来る能力を有せず、足柄地区事務所 果樹班と防除講習会を開催し指導してきたが平成24年産の集荷された生ウメについて加工比率が4割以上あり、その主な要因がかいよう病である。かいよう病多発の要因解明(耐性菌の可能性)と防除対策に向けた試験研究を切にお願いしたい。</p>			
			
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術所 <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター		

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部病害虫研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 病害虫の診断同定及び発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立			
対応の内容等 神奈川県のうちめ防除暦に4月のマイコシールドの追加や秋の防除を加えた防除体系で現地試験を行い、かいよう病の発生動向を確認します。			
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			